

第3章 史跡の概要

第1節 百々陶器窯跡の概要

1 位置・環境

百々陶器窯跡の周辺には洪積台地の上位段丘面が尾根状に残存し、この段丘の南側斜面に百々陶器窯跡は位置する。段丘面の南側には木下川が東から西に流れている。指定地の周辺一帯は耕作地、森林となっている。

百々陶器窯跡が所在する汐川南の地域では縄文時代前期中葉の遺物が多量に出土した青津前田遺跡(74)、弥生時代後期中心の御菌遺跡(76)が確認されているが、古墳時代、古代の集落等は現在確認されていない。また、この地域では堀山田(101)で弥生時代後期の銅鐸2個体、谷ノ口(100)で3個体が発見されている。

百々陶器窯跡は中世渥美窯の汐川南地区の南神戸支群に属する。汐川南地区では4つの支群が形成され、窯跡や遺物が多く見つかっている。この地区では蜷川支群で鳴森古窯跡(63)・院内古窯跡(54)・富山C古窯跡(55)、南神戸支群で弥栄古窯跡(69)、西神戸支群で本前古窯跡(68)・仲古窯跡(42)、大草支群で惣作古窯跡(17)・大草平松古窯跡(67)・蔵屋敷古窯跡(66)が調査されている。

百々陶器窯跡は国道42号から谷を挟んだ丘陵地に位置する。指定地への公共交通機関のアクセスは豊橋鉄道渥美線の三河田原駅から車で15分、ぐるりんバス停東ヶ谷から徒歩10分である。校区内には六連市民館、六連小学校、百々集会所などがある。



図 41 百々陶器窯跡周辺の位置図

表5 百々陶器窯跡周辺の遺跡一覧（図41）

No	遺跡名	No	遺跡名	No	遺跡名
古窯跡		38	平松古窯跡	75	松本遺跡
1	奥恩中古窯跡	39	堀山田古窯跡	76	御菌遺跡
2	七ッ釜古窯跡	40	赤松古窯跡	77	武浜遺跡
3	踏分A古窯跡	41	西高尾古窯跡	78	稲荷下遺跡
4	踏分B古窯跡	42	仲古窯跡	79	加治遺跡
5	黒川古窯跡	43	富士手古窯跡	80	安原蜻遺跡
6	極楽古窯跡	44	大無生古窯跡	81	郷仲遺跡
7	新道古窯跡	45	高尾古窯跡	82	八所神社内遺跡
8	笹尾古窯跡	46	中大尻古窯跡	83	高畑遺跡
9	坪沢古窯跡	47	宮前古窯跡	84	御堂崎遺跡
10	御菌古窯群	48	市ノ坊古窯跡	85	向嶋遺跡
11	荒子古窯跡	49	谷ノ口古窯跡	86	取手遺跡
12	本郷古窯跡	50	仙路山古窯跡	87	平戸遺跡
13	新池古窯跡	51	花水古窯跡	88	新美渚水遺跡
14	辻古窯跡	52	数原古窯跡	89	深田遺跡
15	山田古窯跡	53	神ノ釜古窯跡	90	南番場遺跡
16	大草原古窯跡	54	院内古窯跡	91	南前遺跡
17	惣作古窯跡	55	富山C古窯跡	92	門前遺跡
18	包丁池古窯跡	56	富山B古窯跡	93	山股遺跡
19	宝竜古窯跡	57	富山A古窯跡	94	竹之内遺跡
20	佐位神古窯跡	58	堀山田C古窯跡	95	矢部沢大砲鑄造跡
21	茶畑古窯跡	59	稲場古窯跡	96	前田遺跡
22	三軒古窯跡	60	十七谷古窯跡	97	御菌蒔遺跡
23	衣笠下古窯跡	61	西砦古窯跡	98	新美古墳
24	藤七原古窯跡	62	沢古窯跡	98	城宝寺古墳
25	桜畑古窯跡	63	嶋森古窯跡	99	神明社古墳
26	鎌田古窯跡	64	山田古窯跡	その他の遺跡	
27	新美古窯跡	65	一本木古窯跡	100	谷ノ口銅鐸出土地
28	清水古窯跡	66	蔵屋敷古窯跡	101	堀山田銅鐸出土地
29	石取下古窯跡	67	大草平松古窯跡	102	半身塚
30	ニッ坂古窯跡	68	本前古窯跡	103	参天塚
31	大沢下古窯跡	69	弥栄古窯跡	104	松代姫墓
32	殿町古窯跡	70	新井古窯跡	105	中新造塚
33	五軒丁古窯跡	71	鍋田古窯跡	106	一色七郎墓跡
34	天伯古窯跡	集落跡・貝塚・散布地など		107	豊島古墓
35	大池古窯跡	72	カタセ遺跡	108	東新田経塚
36	志田B古窯跡	73	石井戸遺跡		
37	志田A古窯跡	74	青津前田遺跡		

『愛知県史』や『埋蔵文化財包蔵地遺跡台帳』に記載のある遺跡名の古窯、古窯群、古窯跡については今回の表記では古窯跡に統一した。

2 指定に至る経緯と指定から現在までの経緯

百々陶器窯跡は窯体の構造を知ることができる窯跡として、1922（大正11）年3月8日に愛知県内の国指定史跡第1号として当時の内務省から指定された。同年11月6日に杉山村（現在の豊橋市、田原市）が管理者に指定された。また、指定当時は個人所有の土地であったが、のちに杉山村持、そして地区所有となっている。その後、1993（平成5）年に田原町が公有地化している。しかしながら、昭和・平成の市町村合併によって、指定当時の経緯を知る資料が散逸し詳細は不明である。

1923年発刊の『渥美郡史』には奈良時代の窯跡として窯体の位置などが詳しく記載がされている。そこには残存した窯体の天井部が露出した写真と、窯体残存部の計測値が示されており、発掘調査が盛んでなかった時代に窯体の構造が可視できる遺跡として当時珍しかったことも指定に至った理由と考えられる。また、渥美郡史編纂に関わった内務省の柴田常恵の方針もあったことと思われる。

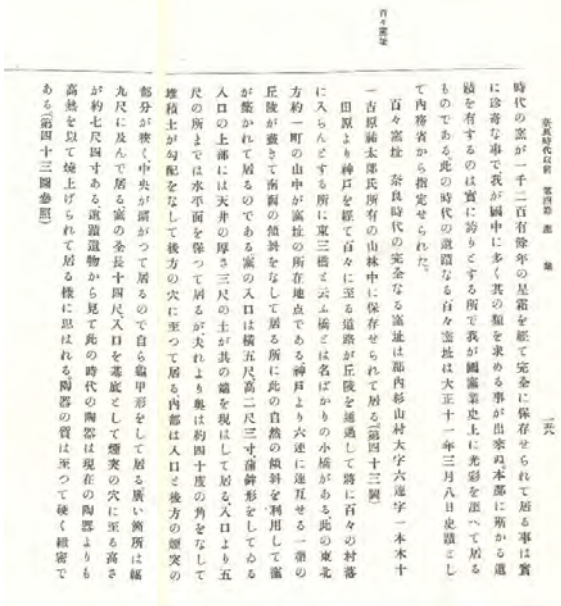


図42 『渥美郡史』百々窯址記載部分
(愛知県渥美郡役所 1923)



図43 百々窯址 上図 所在地全景
下図 窯址入口
(愛知県渥美郡役所 1923)

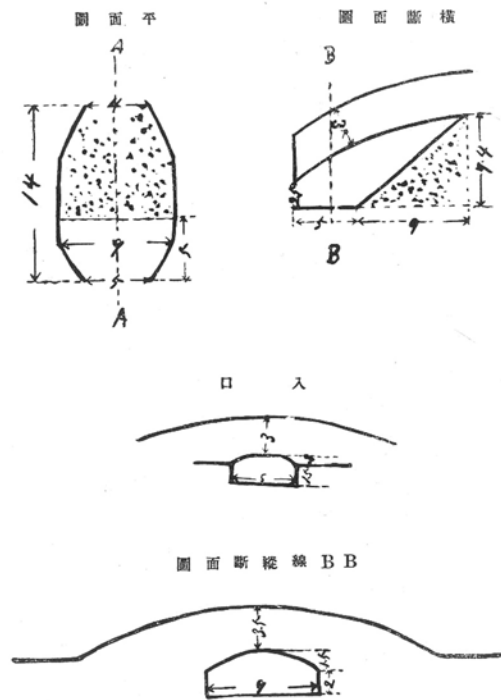


図44 百々窯址図
(愛知県渥美郡役所 1923)

現在の指定地は森林であるが、昭和40年代以降、豊川用水関連工事やそれに伴うほ場整備等によって、指定地周辺は耕作地が広がっている。

百々陶器窯跡は指定地内外で史跡の保存や整備のために工事が実施されている。1993（平成5）年に雨水の流れ込みによる指定地内の地形の損壊を防ぐための対策として排水路を設置した。この工事の際に指定地外の北側で窯体を1基確認した。1996年に大正時代の写真に映されていた窯体の天井の崩れを防ぐため、空洞部分に土のうを詰める工事を行った。2000年には環境整備工事（窯体の位置を示す石列の設置）を田原町教育委員会が実施した。2006、2017年と雨水によって崩れた箇所を修繕を実施した。1992年、2019（令和元）年度に現況測量図を作成した。

現在は石柱と史跡説明の案内看板が設置され、石列で2基の窯体が縁取られ表現されている状態である。また、2基の窯体の西側に1993年の工事で確認した指定地外まで伸びる窯体が1基存在する。

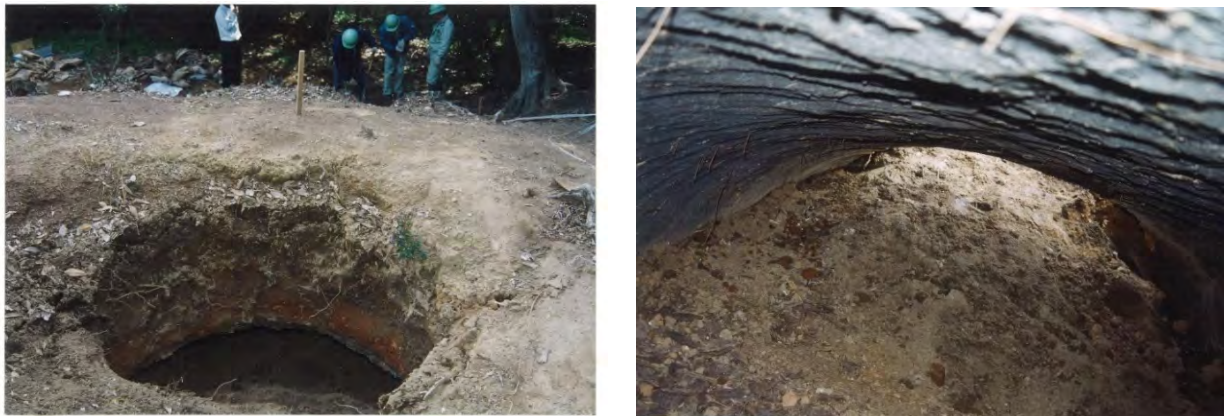
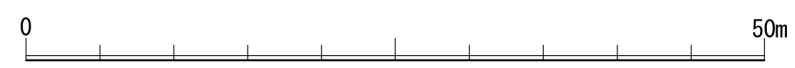


図 45 百々陶器窯跡の窯体の残存の様子 2000年



図 46 百々陶器窯跡工事の様子 2000年



指定地

図 47 百々陶器窯跡 現況測量図 (2020 年作成)

表6 主な整備・工事内容

内 容	時期・工期	備 考
百々陶器窯跡整備	1991. 3. 6～3. 20	倒木撤去、下草刈り、稚木伐採 窯体の東側に素堀側溝深さ約20cm
地積測量	1992. 2. 5～3. 10	地積測量 測量図 1/500
現況測量調査	1992. 2. 5～3. 10	史跡の現況測量 横断・縦断面図、1/500
土地地積更正登記	1993. 7. 6	地積更正登記
排水路設置工事	1993. 7. 29～11. 9	工事延長 U型側溝 300mm L=105m 集水枿 5ヵ所 窯体の一部を確認
土地の公有化	1993. 8. 3	土地売買（町単費）
指定地の面積変更	1993. 8. 10	指定面積の変更 495㎡→1,916㎡
登記嘱託	1993. 8. 27	所有権移転登記 渥美郡杉山村→渥美郡田原町
排水路工事	1995. 1. 4	指定地内の排水路に排水パイプを接続
開口部封鎖工事	1996. 3. 5～3. 8	窯体のくずれを防ぐため、土のうで窯体内を養生
保存等整備工事	2000. 1. 28～3. 30	環境整備工事（窯体の位置に石を並べる等）
案内板設置工事	2001. 1. 24～2. 21	説明案内看板の修理
指定地内のき損	2004. 10. 9	台風の雨水による影響で指定地内の斜面崩落
復旧工事	2006. 1. 20～2. 28	台風の影響で崩落した箇所への復旧、雨水対策の板柵の設置
フトン籠設置工事	2017. 7. 17～21 2017. 11. 4	雨水対策のフトン籠を指定地内に設置 土のう積み、人工張芝
現況測量調査	2019. 12. 13 ～2020. 3. 25	史跡の現況測量図作成 1/500、1/250

3 指定の状況（指定告示）

指定告示

名称	百々陶器窯跡
所在地	渥美郡杉山村大字六連字一本木拾壹番
地目	山林
地積	三十九町八反六畝四歩ノ内指定地積一反二七歩（實測）
指定年月日	大正 11 年 3 月 8 日
告示番号	内務省告示第 49 號
管理者氏名及指定年月日	杉山村 大正 11 年 11 月 6 日管理者に指定 (内務省発理第 36 號)
所有者	吉原祐太郎

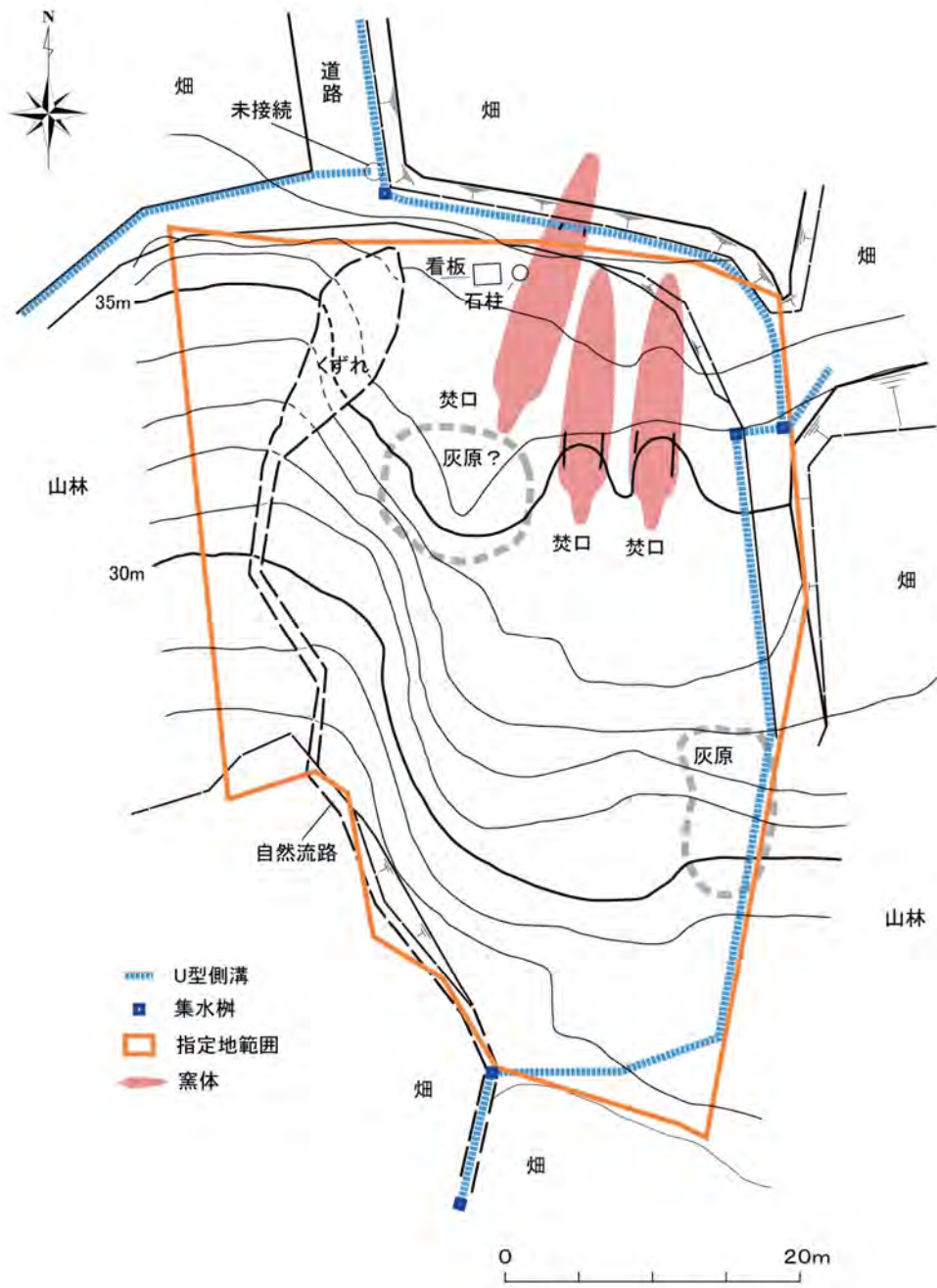


図 48 百々陶器窯跡遺構想定位置図 (1992 年測量図を元に作成)

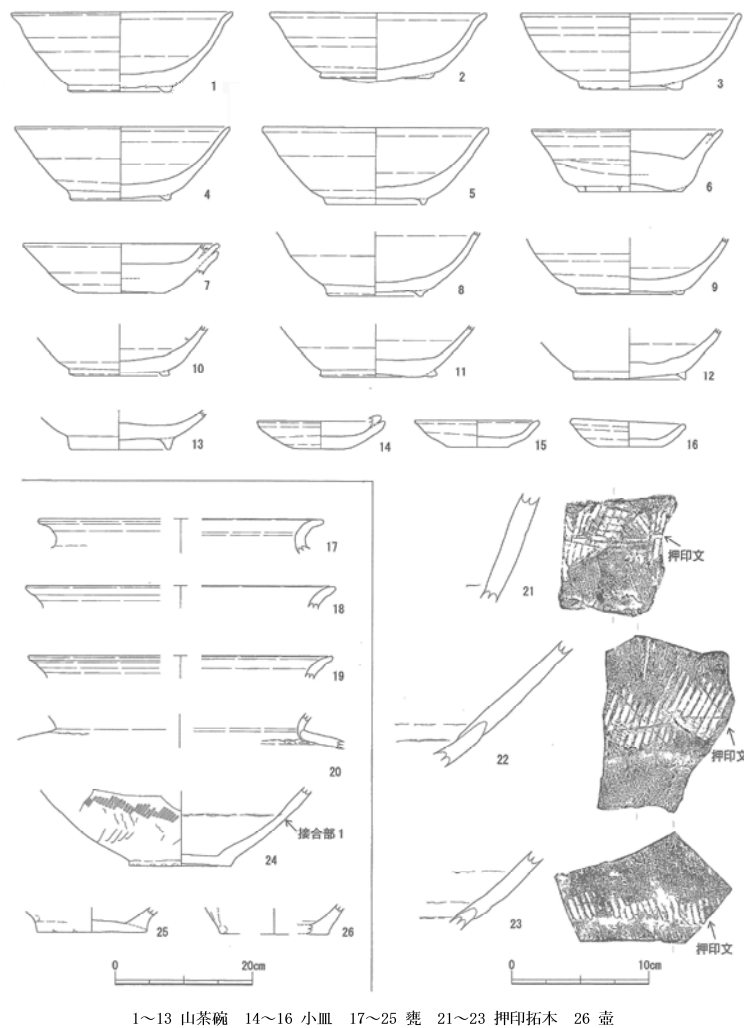
4 指定説明文と概要

文化庁の『国指定文化財等データベース』ホームページに「丘陵ノ斜面ニ隧道状ヲ呈シ數個相並フ上古ノ構造ヲ知ルヘキモノアリ附近一帯ハ窯趾地帯ニ属ス」とある。

史跡指定時の状況がわかる資料はないが、指定直後の1923（大正12）年には、『渥美郡史』に当時の状況が記載されている。

百々陶器窯跡は発掘調査が実施されていない窯跡であるため、詳細な窯体構造は判明していないが、天井部を含め窯体の大部分が残存する3基の窯が指定地内に存在する。また、窯の付近には灰原が確認でき、山茶碗や甕片が地表面に散らばっている。表採遺物の山茶碗、小皿、甕片などの年代から百々陶器窯跡は2b期（12世紀末から13世紀初頭）以降の窯跡と考えられる。

指定地内は大正時代の指定から地形の造成がほとんどなされていないため、確認調査によって窯跡関連遺構や周辺の環境を含めた生産実態の検討をすることが可能である。



1～13 山茶碗 14～16 小皿 17～25 甕 21～23 押印拓木 26 壺

図49 百々陶器窯跡表採遺物（清水 2020）

5 指定地の状況

所有者

田原市

土地利用

- ・指定地は現況が森林と道路で、周辺は畑、森林となっている。

法規制

- ・指定地内は「森林法」による地域森林計画対象民有林。
- ・指定地内外は「都市計画法」による市街化調整区域。
- ・指定地周辺の畑は「農業振興地域の整備に関する法律」による農業振興地域。



図 50 説明看板と標柱



図 51 史跡の現況

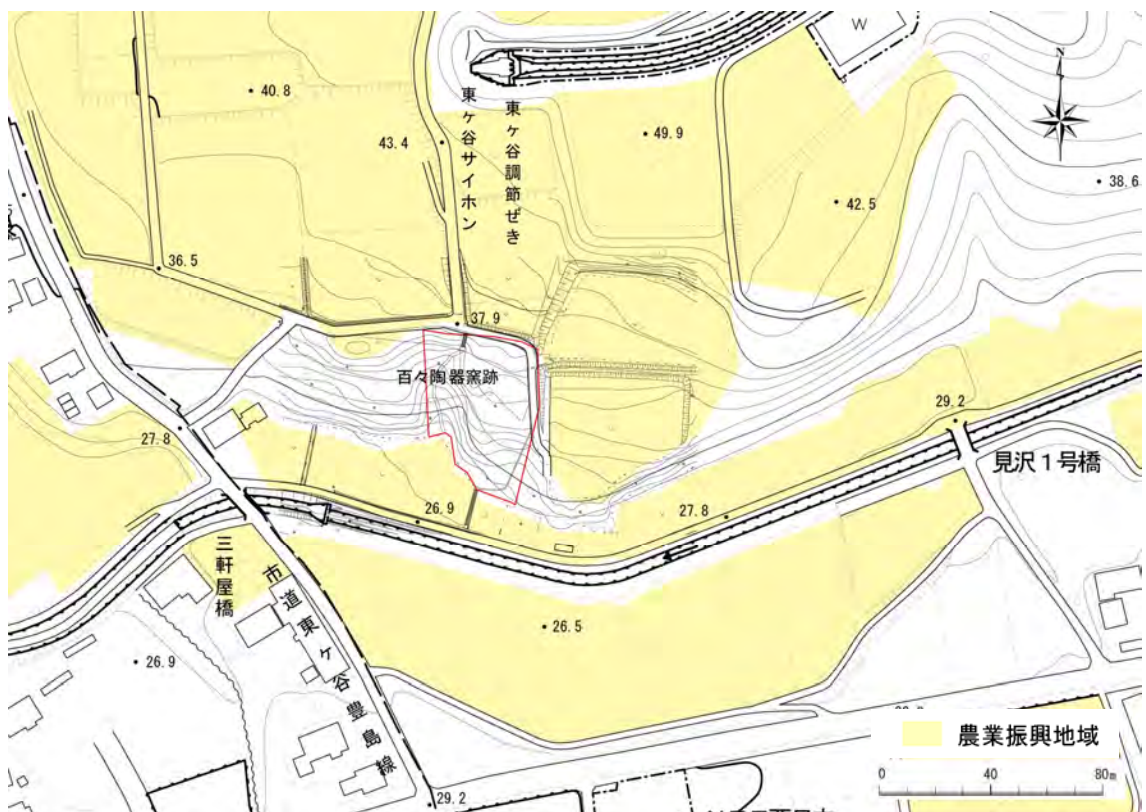


図 52 指定地の状況

第2節 大アラコ古窯跡の概要

1 位置・環境

大アラコ古窯跡は渥美半島のほぼ中央にある芦ヶ池の南西にある物見山の裾部の小さな谷地形の斜面地に位置する。指定地を含めて周辺一帯には耕作地が広がる。

芦ヶ池東側の山を越えた場所に旧石器時代から縄文時代草創期にかけての宮西遺跡(34)、雁合遺跡(33)、長代遺跡(32)が所在する。芦ヶ池北西側には弥生時代中期の壺が見つかった小山田遺跡(26)、後期の壺や高坏が見つかった柳原遺跡(27)がある。芦ヶ池北東の池底には古墳時代を中心とした土師器・須恵器・木製品が出土した山崎遺跡(30)が所在する。芦ヶ池の南東側には古墳時代後期の最大規模の群集墳である向山古墳群(44)が築かれている。

大アラコ古窯跡は中世渥美窯の芦ヶ池南地区の芦ヶ池支群に属する。この地区では4つの支群が形成される。高松支群では法蔵寺古窯跡(12)、芦ヶ池支群では郷津古窯跡(15)・平岩古窯跡(14)・竜ヶ原古窯跡(6)、比留輪原支群は夕古窯跡(7)、野添原支群は野添原A古窯跡(2)が調査されている。

芦ヶ池南地区は国衙領に推定されている。芦ヶ池北西には田原市唯一の式内社である阿志神社が鎮座する。

指定地へのアクセスは公共交通機関で豊橋鉄道渥美線の三河田原駅から車で15分、ぐるりんバス停芦集会所から徒歩で15分である。車の場合、国道259号から県道398号高松石神線を通り北に少し進んだところに指定地が位置する。芦ヶ池北側には田原市の公共施設であ

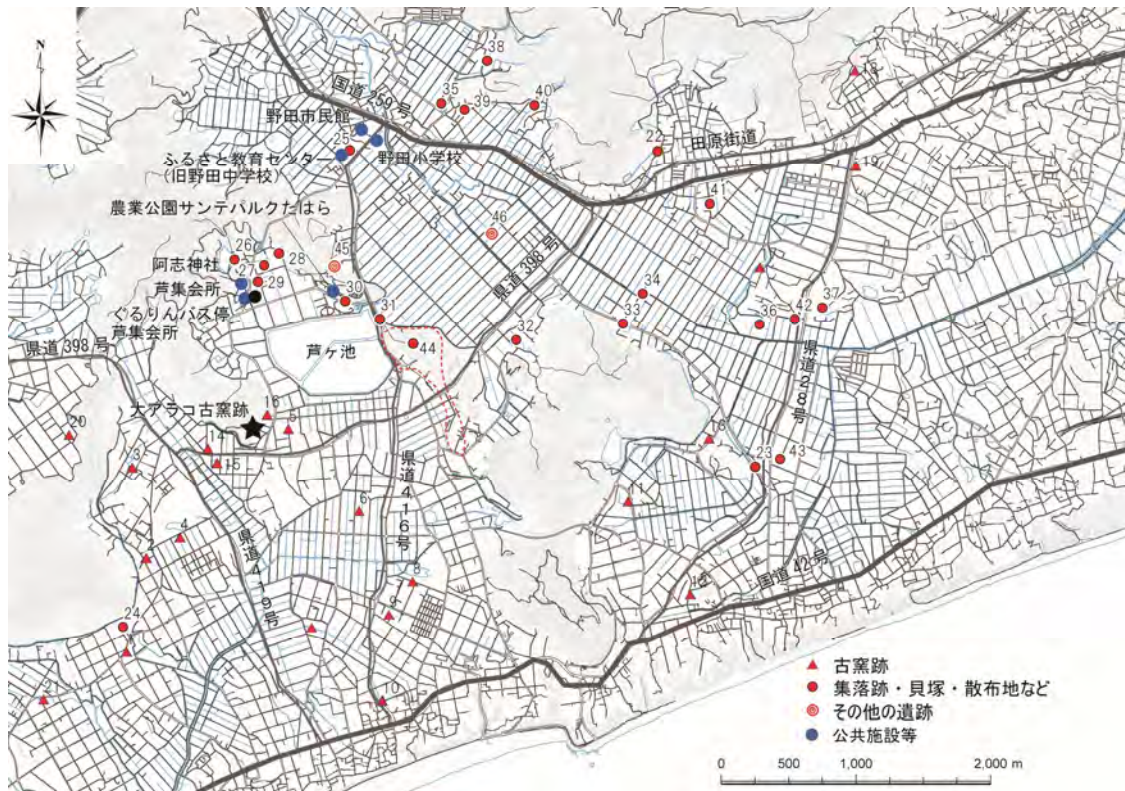


図53 大アラコ古窯跡周辺の位置図

る農業公園サンテパークたはらが所在する。サンテパークたはらは、定期的にイベントが行われ親子連れなど多くの観光客が訪れる田原市を代表する集客施設である。また、ふるさと教育センター（旧野田中学校）に埋蔵文化財整理室と展示室がある。校区内には野田小学校、野田市民館、芦集会所などがある。平成になって指定地に隣接して復元窯の新大アラコ窯が築かれ、民間で運営されている。

表7 大アラコ古窯跡周辺の遺跡一覧（図53）

No	遺跡名	No	遺跡名
古窯跡		24	へんび遺跡
1	へんび古窯跡	25	籠田遺跡
2	野添原A古窯跡	26	小山田遺跡
3	野添原B古窯跡	27	柳原遺跡
4	奥新田古窯跡	28	高田遺跡
5	浜宝珠古窯跡	29	カミゲト遺跡
6	竜ヶ原古窯跡	30	山崎遺跡
7	夕古窯跡	31	池下遺跡
8	青木池古窯跡	32	長代遺跡
9	赤東A古窯跡	33	雁合遺跡
10	赤東B古窯跡	34	宮西遺跡
11	尾村崎古窯跡	35	公文所遺跡
12	法蔵寺古窯跡	36	佐藤遺跡
13	宮裏古窯跡	37	黒河遺跡
14	平岩古窯跡	38	前田遺跡
15	郷津古窯跡	39	柏坪A遺跡
16	籠池古窯跡	40	柏坪B遺跡
17	大師田古窯跡	41	北浅場遺跡
18	奥恩中古窯跡	42	黒河B遺跡
19	七ツ釜古窯跡	43	高松古墳
20	八王子古窯跡	44	向山古墳群
21	不毛原古窯跡	その他の遺跡	
集落跡・貝塚・散布地など		45	尾ヶ坂古墓
22	籠池古墳	46	野田条里遺跡
23	ぜんご遺跡		

『愛知県史』や『埋蔵文化財包蔵地遺跡台帳』に記載のある遺跡名の古窯、古窯群、古窯跡については今回の表記では古窯跡に統一した。

2 指定に至る経緯

1950(昭和25)年頃に平岩にある畑の耕作者が藤原顕長銘の陶片を発見し、1951年に地元の郷土史家の鬮目作司が『三河郷土学会報 第2号』でその陶片を紹介した。その後、1955年に郷津地内の土地造成工事で窯体の焼成室の一部が発見され、1956年に野田史談会が窯体1基(第1号窯)の調査を実施し、山茶碗・小碗・大甕が出土した。1964年に地元の考古学研究者の小野田勝一らが4基の窯体を確認した。西から順に第2、3、4、5号窯と名づけ、第2号窯と第3号窯の一部を調査した。1965年に日本考古学協会生産技術特別委員会窯業部会によって第2号窯の南西側の第6号窯が調査され、第5号窯の北東側でさらに2基(第7、8号窯)の窯体を確認された。これらの調査成果により、1971年1月12日に「大アラコ古窯跡」として国史跡に指定された。

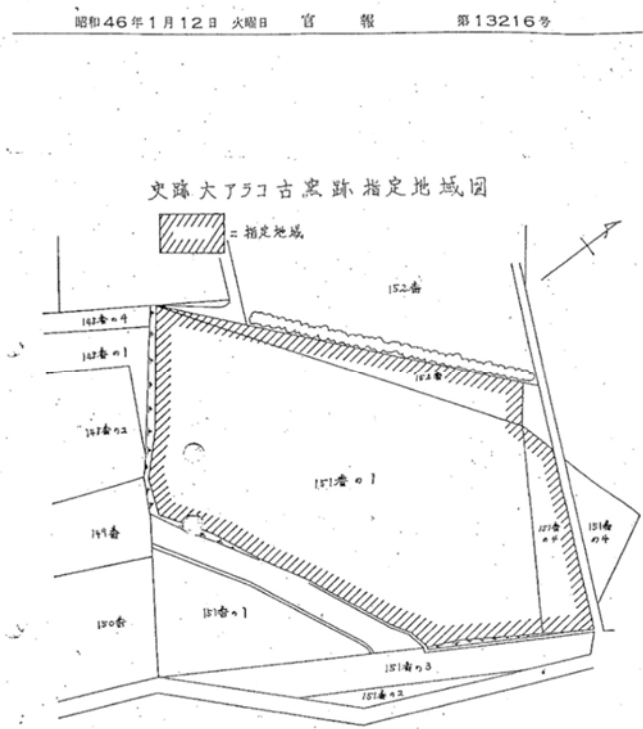


図54 『官報』 大アラコ史跡指定地域図(1971年)

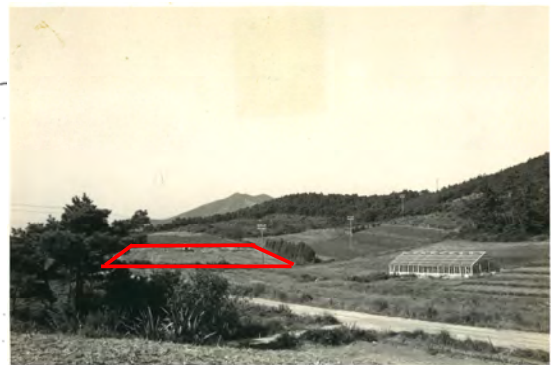


図55 大アラコ古窯跡
1964年頃の地形(北東から)

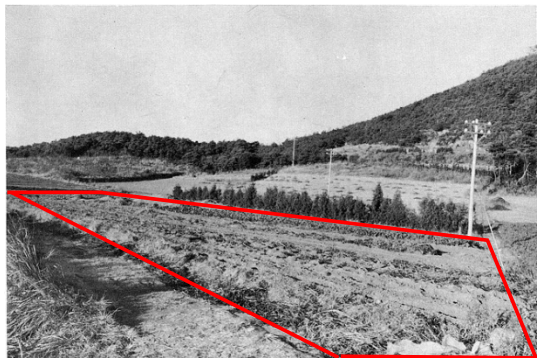


図56 大アラコ古窯跡
指定当時の地形(東から)

3 指定から現在に至る経緯

大アラコ古窯跡は1971年から1977年にかけて、経緯は不明であるが指定地内で無断現状変更の造成が行われた。指定当時には指定地内外は谷地形であったが、山側の土を削り、耕作地として利用しやすいように指定地内周辺を平坦な土地にしたと思われる。この造成によって発掘調査時に確認した窯体の位置が把握できなくなってしまった。また、指定地周辺では、平成になってほ場整備が行われ、農地整備、水道工事、道路工事が実施され、指定当時と周辺地形の景観が著しく変わっている。

大アラコ古窯跡は指定時に地番だけではなく、現況地形に合わせて指定をしているため、田原町大字芦村字郷津151ノ1のうち一部、151番ノ4のうち一部、152番のうち一部が指定地番となっている。その後、1991（平成3）年に指定地内で道路用地のために土地の分筆と所有権移転が行われた。そして、指定域を確認する地籍測量を行い、現在では指定地の大部分が耕作地で、一部道路も含まれている状態である。現在の指定地番は田原市芦町郷津151-1、152-1の一部、151-5の一部、大アラコ63の一部である。

指定地内には、国史跡を示す標柱と説明看板が設置されているが、指定区域を示す杭は設置されていない。また、発掘調査以後、1994年の工事立会等で、指定地外にも窯体1基（第9号窯）があることが確認され、大アラコ古窯跡は9基以上の窯体が存在することがわかっている。

現在では標柱と説明看板が設置され、平坦な地形で大部分が耕作地として使用されている。大アラコ古窯跡は窯体が9基確認されているが、第1号窯は指定地西側の山側の指定地外に位置している。指定後に工事で確認された第9号窯は第8号窯の北東側に位置しており、指定地外にあると思われる。

大アラコ古窯跡の出土品（藤原顕長銘短頸壺など）は田原市博物館の企画展などで活用されている。



図 57 大アラコ古窯跡の指定範囲と窯体（推定）位置図

現況測量図（2020年作成）と1964、1965年の調査図面（田原町文化財調査会1973）を合成

現況測量図では西側が高く、東側が低い。過去の調査図面では南東が高く、北西が低い地形である。

※図中の「0m」、「-1m」、「-2m」は道路を基準とした標高差

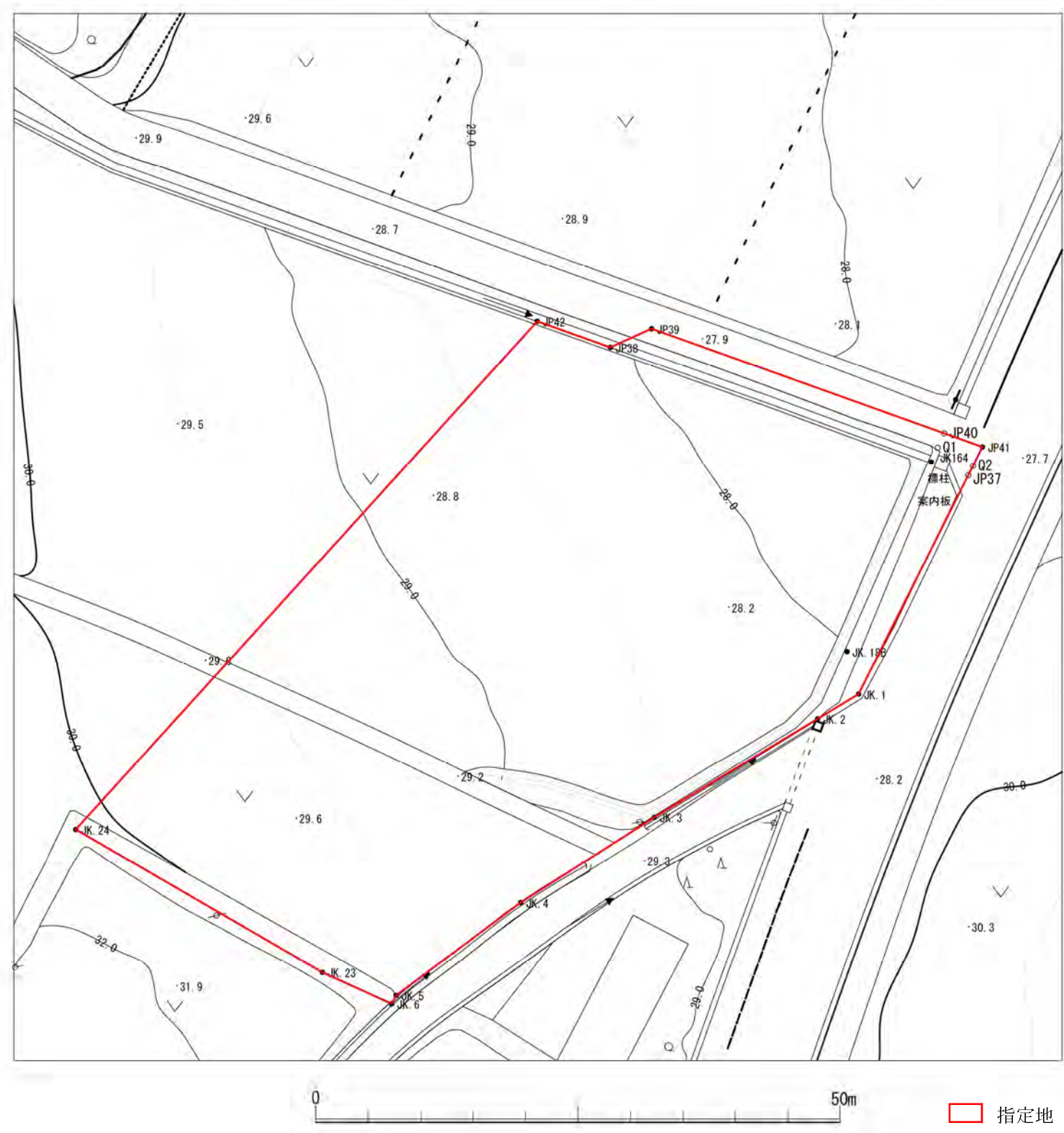


図 58 大アラコ古窯跡現況測量図 (2020 年作成)

4 指定の状況（指定告示）

指定告示

名称 大アラコ古窯跡

所在地および地域 愛知県渥美郡田原町大字芦村字郷津 151 番ノ1のうち実測 2474.38 平方メートル、151 番ノ4のうち実測 220.52 平方メートル、152 番のうち実測 228.55 平方メートル

指定年月日 昭和 46 年 1 月 12 日 文部省告示第 3 号

指定基準 特別史跡名勝天然記念物指定基準 史跡の部第 6（窯跡）による

指定説明 渥美半島のほぼ中央部近くに芦ヶ池があるが、この池に流れこむ谷のひとつに、通称大アラコと呼ばれている谷があり、窯跡は、この谷頭の北西斜面に位置している。昭和 39 年と 40 年の調査で 5 基の窯が発見され、うち 2 基が発掘された。

窯は、いずれも傾斜面をトンネル式に穿った登窯で、全長は約 16 メートル前後、燃焼室と焼成室との間には分焰柱が設けられている。

出土品は、甕、壺、鉢、碗、皿の類であるが、大形の壺には三河守の藤原朝臣顕長の名を篋書したものもみられる。顕長が三河守であったのは保延 2 年（1136 年）から久安元年（1145 年）の間と久安 5 年（1149 年）から久寿 2 年（1155 年）の間である。

遺構の保存状態も良好であり、使用年代を知り得る古窯として学術上の価値が高い。

5 調査成果

大アラコ古窯跡は渥美半島の中央にある芦ヶ池の南西にある山の裾部の東から西に入り込む小さな谷に位置する。谷の北側斜面には第 1 号窯、南側斜面には第 2 号窯から 9 号窯が築かれている。

大アラコ古窯跡は計 9 基のうち、第 1、2、6 号窯と 3 号窯の分焰柱手前の燃焼室の調査が実施されている。

第 1 号窯は焼成室が残存しており、残存長 14.2m、床面最大幅 3.4m である。焼成室の傾斜が急なところは床面を掘り込んだ窪みが見られ、

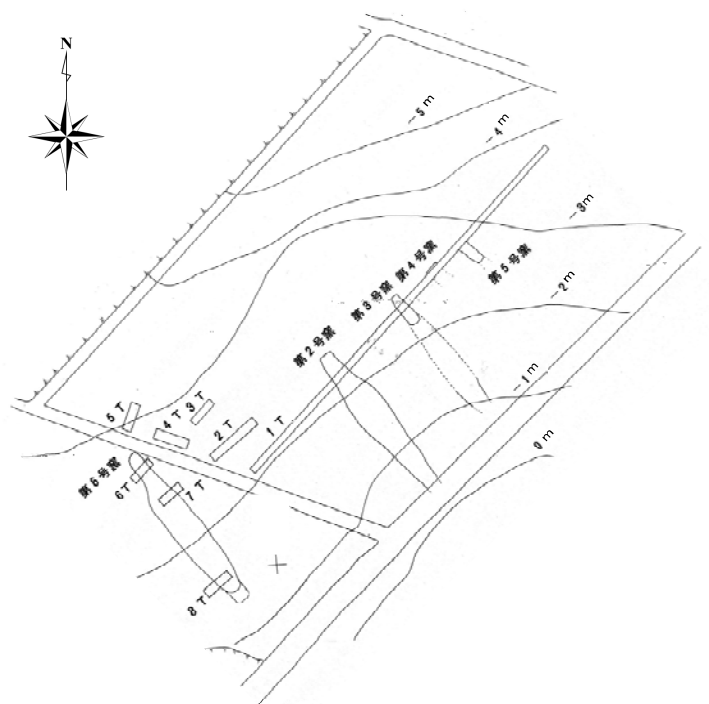


図 59 大アラコ古窯跡の地形実測図
（田原町文化財調査会 1973）一部変更

製品を固定するために窪みの中に甕片や山茶碗片がおかれている箇所もあった。窯内から輪花碗・玉縁輪花碗・玉縁碗・小碗・甕が出土している。

第2号窯は煙道部の一部が滅失しており、残存長16.1m、床面最大幅3.4mである。焼成室前半部の両壁際に大甕が6個体ずつ焼台を支えにして置かれており、後半部の両壁際にも大甕が置かれていた。中央部には山茶碗などの小型製品が配置されていた。窯内から輪花碗・玉縁碗・片口山茶碗・小碗・灯明皿・甕・短頸壺・紡錘車・陶錘・灰釉小型壺・袈裟襷文壺、灰原から瓦塔・壺が出土している。

第3号窯は分焰柱手前の燃烧室の床面付近まで掘削し、遺物を取り上げたところで作業が中止となっているため、窯体の構造については不明である。窯体内埋土から藤原顕長銘の短頸壺(図64)・甕・山茶碗・折り返し小杯が出土している。

第6号窯は煙道部の一部が滅失しており、残存長17.6m、床面最大幅約2mである。両壁際に大甕が置かれ、焼台で支えられていた。輪花碗・小碗・片口鉢・鉢・甕・紅葉文甕(図67)・広口壺・陶錘、灰原から輪花碗・藤原顕長銘の短頸壺が出土している。

大アラコ古窯跡の窯体構造は甕・山茶碗兼業窯である。

大アラコ古窯跡は、出土した短頸壺に刻まれた三河国司藤原顕長(注)の国司在任期間から操業時期を絞ることができ、東海地方の中世陶器における山茶碗編年の基点となっている。研究初期の田中稔や久永春男らによって編まれた山茶碗編年においても大アラコ古窯の山茶碗は実年代を与えることができる資料として位置づけられていた。

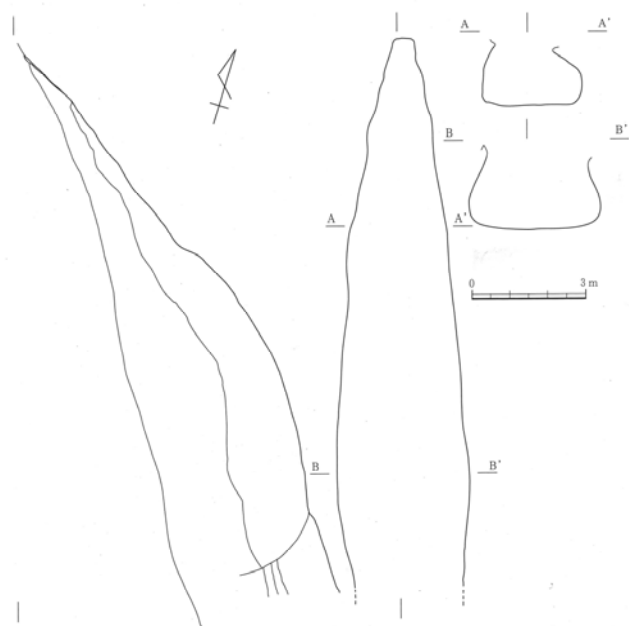


図60 大アラコ第1号窯遺構図
(愛知県 2012)

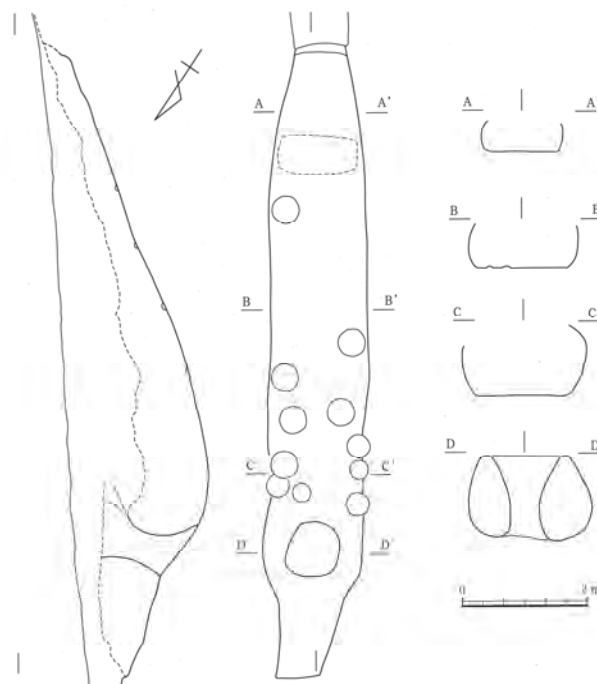


図61 大アラコ第2号窯遺構図
(愛知県 2012)

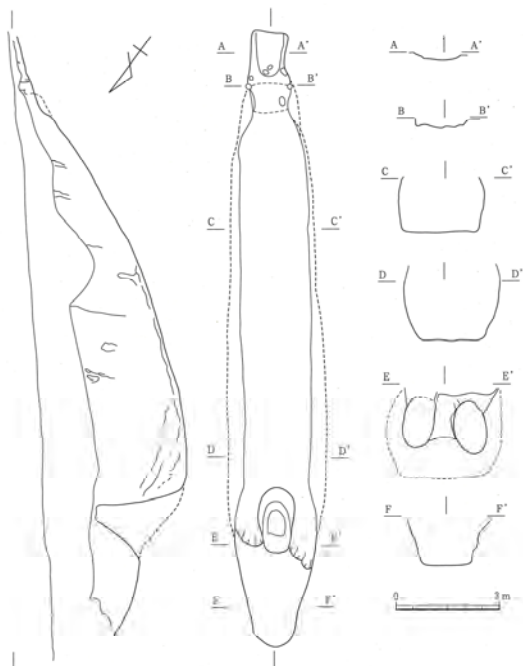


図 62 大アラコ第 6 号窯遺構図
(愛知県 2012)

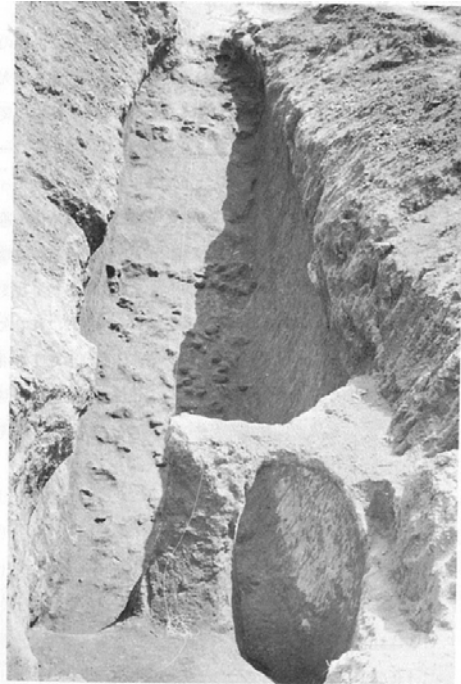


図 63 大アラコ第 6 号窯 焚口より
(1965 年調査)



図 64 大アラコ第 3 号窯
藤原頭長銘短頸壺

藤澤 試案	田中 稔	久永春男	杉崎 章	赤塚幹也	田口昭二	
段階	型式	(註13)	(註14)	(註18)	(註19)	(註21)
I	1			上手～	虎溪山 1	
	2	広久手E		中手上級	丸石 2	
II	3	大アラコ	第一型式	第一型式	中手中級	西坂 1
	4	社山			中手下級	浅間窯下 1
III	5	石根	第二型式	第二型式	中間～ 下手上級	丸石 3 窯洞 1
	6	露根	第三型式	第三型式	下手中級	白土原 1 大洞東 1
	7	山新田			下手下級	
IV	8					
	9					
	10					

図 65 山茶碗型式の比較 (藤澤 1982)

大アラコ古窯跡からは施釉陶器 (図66) も出土している。このことから、中国陶磁を模倣した施釉陶器生産で著名な古瀬戸の生産時期 (12世紀末以降) より古い時期に大アラコ古窯跡で施釉陶器生産を行っていたことがわかる。

注 藤原頭長 (1117～1167 年) は白河法皇の近臣であった藤原頭隆の三男で、2度にわたって三河守に任じられている。藤原頭長が正五位下で2度の三河守であった 1136 (保延 2) 年から 1145 (久安元) 年、1149 (久安 5) 年から 1155 (久寿 2) 年を中心とする時期に大アラコ古窯跡は操業していたと考えられる。また、各地 (静岡県、山梨県、神奈川県) で出土した藤原頭長銘の短頸壺には、「法華経」が納められていたものと考えられ、藤原頭長が家を興すための祈りが込められていたものと思われる。



図 66 大アラコ古窯跡 施釉陶器



図 67 大アラコ第 6 号窯 紅葉文甕



図 68 大アラコ第 2・6 号窯出土品

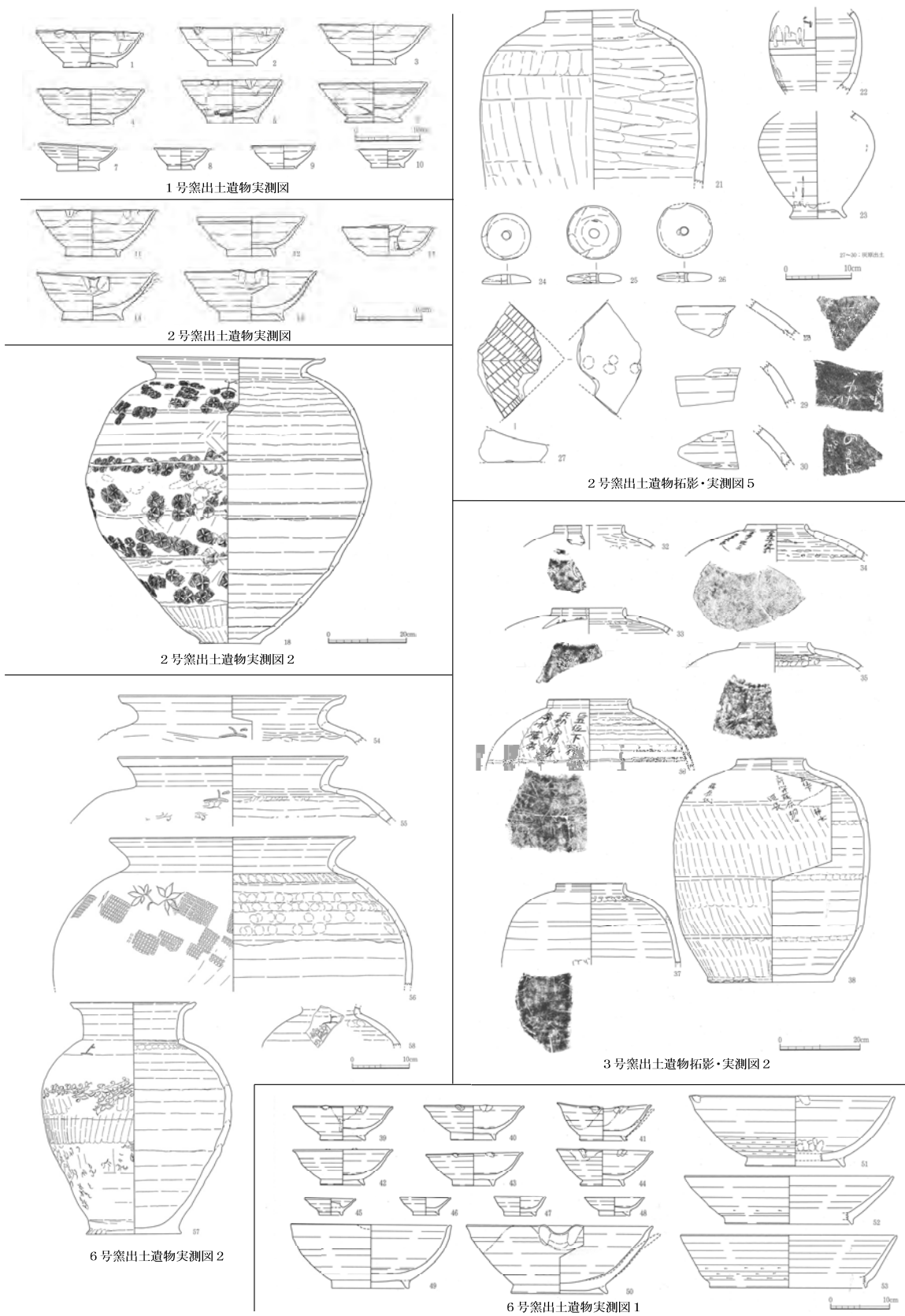


図 69 大アラコ古窯跡出土品 実測図 (愛知県 2012)

6 指定地の状況

所有者（管理団体の指定なし）

個人、田原市、国土交通省（元建設省）

土地利用

- ・指定地は現況が農地（畑）と道路で、周辺は農地（畑）となっている。

法規制・条例

- ・指定地内外は「都市計画法」による市街化調整区域。
- ・指定地内外は「愛知県立自然公園条例」による普通地域。
- ・指定地の郷津152-1、大アラコ63と指定地周辺の畑が「農業振興地域の整備に関する法律」による農業振興地域。



図 70 説明看板と標柱



図 71 指定地の状況

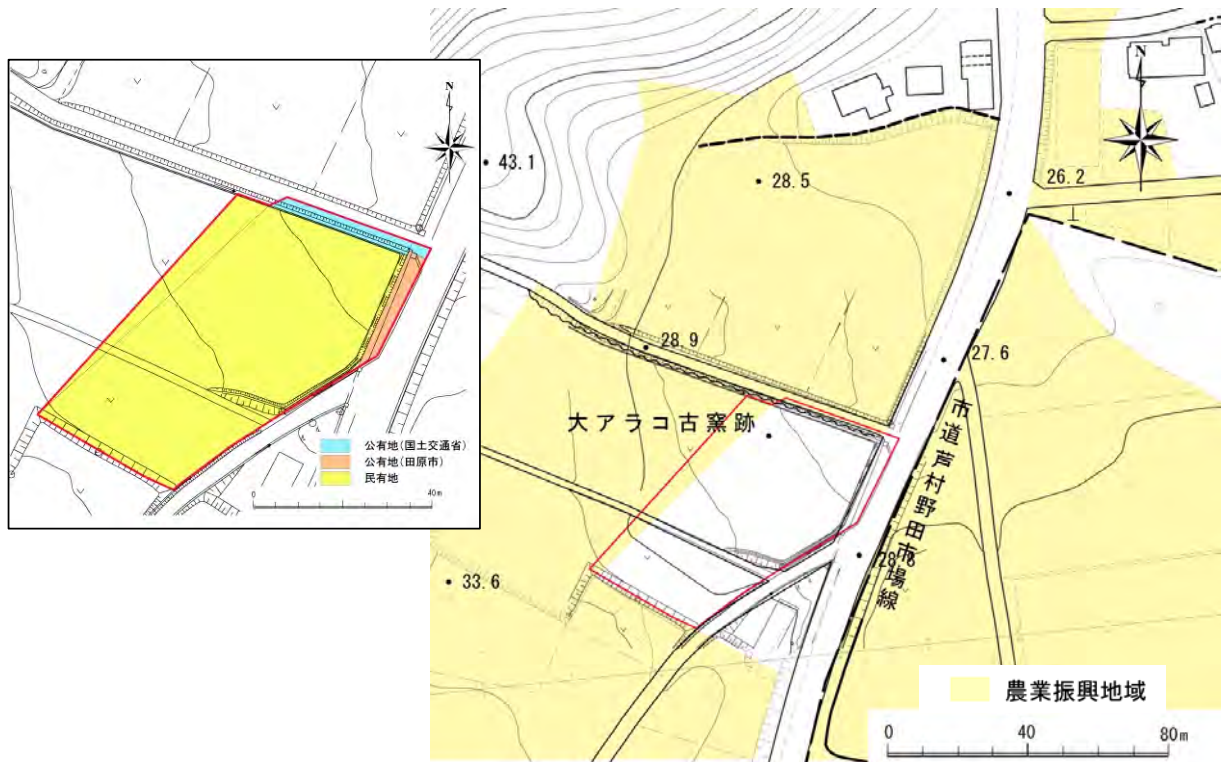


図 72 指定地の状況

第3節 伊良湖東大寺瓦窯跡の概要

1 位置・環境

伊良湖東大寺瓦窯跡は渥美半島先端部の初立池を南北に囲む和名山と石堂山の間、瓦場支谷の斜面地に位置している。指定地の東側は初立池、西側には水田が広がる。

石堂山の北側には縄文時代後期の川地貝塚(10)が所在する。現在は昭和から平成の埋め立てによって滅失して見ることはできないが、川地貝塚の西側には豊島ヶ池が広がっていた。弥生時代から中世までの遺構や遺物が瓦場遺跡群（大草遺跡、大草第1地点など）で確認されている。中世には石堂山に経塚が築かれている。

伊良湖東大寺瓦窯跡は中世渥美窯の伊良湖地区に属する。単独で立地するこの地区では窯跡の数は少ないが、宗教用具を多く生産しており、他の地区の生産体制と異なり特殊性が際立つ。伊良湖東大寺瓦窯跡、皿山古窯跡(2)、皿焼古窯跡(1)が調査されている。

伊良湖には松尾芭蕉など多くの文人が訪れている。万葉の時代から景勝地として知られ、漁夫歌人糟谷磯丸が生まれた地でもある。

指定地までのアクセスは公共交通機関で豊鉄バス停明和から徒歩20分である。車では国道259号から案内看板をもとに初立池公園に向かう途中に位置する。指定地の周辺は初立池と公園があり、公園では花菖蒲などを見に多くの観光客が訪れている。校区には伊良湖岬小学校、伊良湖市民館などがある。



図73 伊良湖東大寺瓦窯跡周辺の位置図

2 指定に至る経緯

伊良湖と東大寺との関係は江戸時代から知られていた。江戸時代の1693（元禄6）年に記された地誌の一つである杉江道雲の『伊良湖名所記』に伊良湖と東大寺に関する記載があり、1770（明和7）年に記された西村白鳥の『煙霞綺談』にも伊良湖で東大寺の瓦が出土することが記載されている。

大正に入り、1923（大正12）年には『渥美郡史』に「東大寺瓦場」の記載があり、鎌倉時代の東大寺再建時の瓦を焼いた窯跡であることが記載されている。その後、1966（昭和41）年に豊川用水初立池の工事に伴い愛知県教育委員会により発掘調査が行われた。調査では、3基の窯体と関係遺構が確認され、「東大寺大佛殿瓦」とある軒丸瓦・軒平瓦、「大佛殿」や「東」と刻印のある平瓦・丸瓦が出土した。その他にも山茶碗・小皿・壺・甕・瓦経・経筒外容器・瓦塔・塼などが出土した。その後、愛知用水公団（現独立行政法人水資源機構）と渥美町（現田原市）により伊良湖東大寺瓦窯跡の管理に関する協定書が締結された。1966年の東大寺鐘楼の修理の際に伊良湖東大寺瓦窯跡から出土した瓦と同じ刻印が押された平瓦が発見され、鎌倉時代の東大寺再建時の瓦を供給した窯跡であることが明確となったことなどから、1967年12月11日に国史跡に指定された。

表8 伊良湖東大寺瓦窯跡周辺の遺跡一覧（図73）

No	遺跡名	No	遺跡名
古窯跡		13	古婦遺跡
1	皿焼古窯跡(皿焼12号窯：市指定史跡)	14	古婦下遺跡
2	皿山古窯跡(皿山古窯群：県指定史跡)	15	大草第1地点
集落跡・貝塚・散布地など		16	大草遺跡
3	松淵遺跡	17	焼山遺跡
4	保美貝塚	18	一色貝塚
5	下地貝塚	19	西の浜清水南松遺跡
6	羽根貝塚	20	七本松遺跡
7	白石遺跡	21	七本松古墳
8	鍛冶田原遺跡	22	ドウツン松遺跡
9	西田原遺跡	23	シーサイド遺跡
10	川地貝塚	24	大松上遺跡
11	段土遺跡	25	藤原古墳群
12	境戸遺跡		

『愛知県史』や『埋蔵文化財包蔵地遺跡台帳』に記載のある遺跡名の古窯、古窯群、古窯跡については今回の表記では古窯跡に統一した。

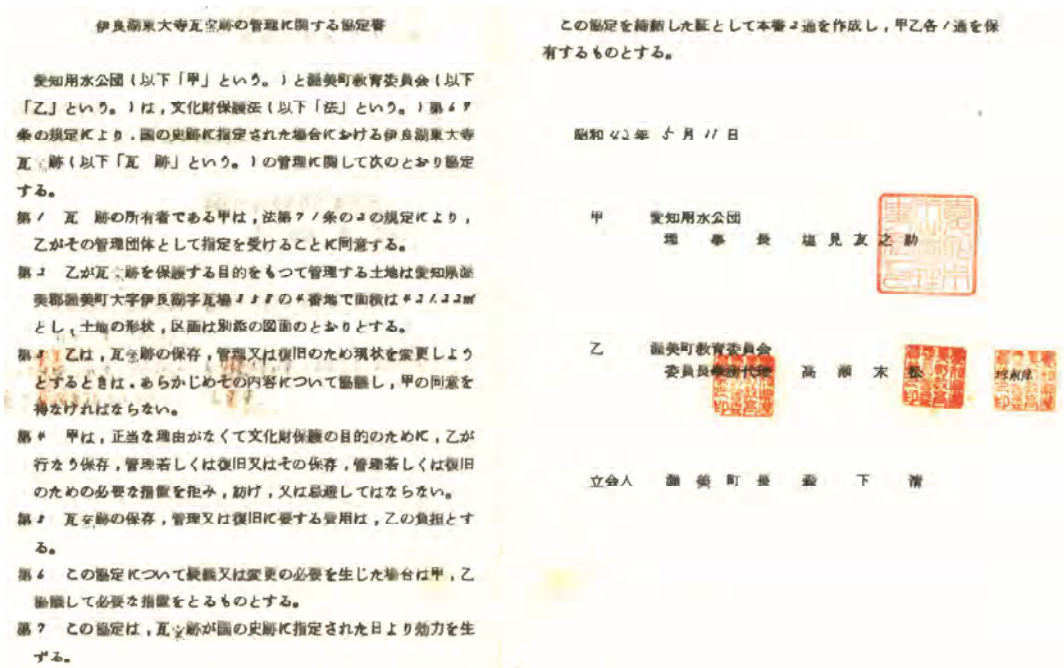


図74 伊良湖東大寺瓦窯跡の管理に関する協定書（1967年締結）

3 指定から現在に至る経緯

指定後、指定を示す石柱、木柵、説明看板が設置されている。国道259、42号からは指定地へ誘導する道路看板が設置され、見学者の便を図っている。

1992（平成4）年に榎原考古学研究所による東大寺大仏殿周辺の発掘調査で、大仏殿北側の石組みの溝跡から瓦当面に「東大寺大佛殿瓦」と記された軒丸瓦・軒平瓦や刻印（東、大佛殿）が同様の丸瓦・平瓦など伊良湖東大寺瓦窯跡で焼成されたものと同様の瓦類が出土した。これらにより、鎌倉時代の東大寺再建時に伊良湖東大寺瓦窯産の瓦が使用されていたことが確認されたが、実際にどの建物に葺かれていたかまでは判明していない。

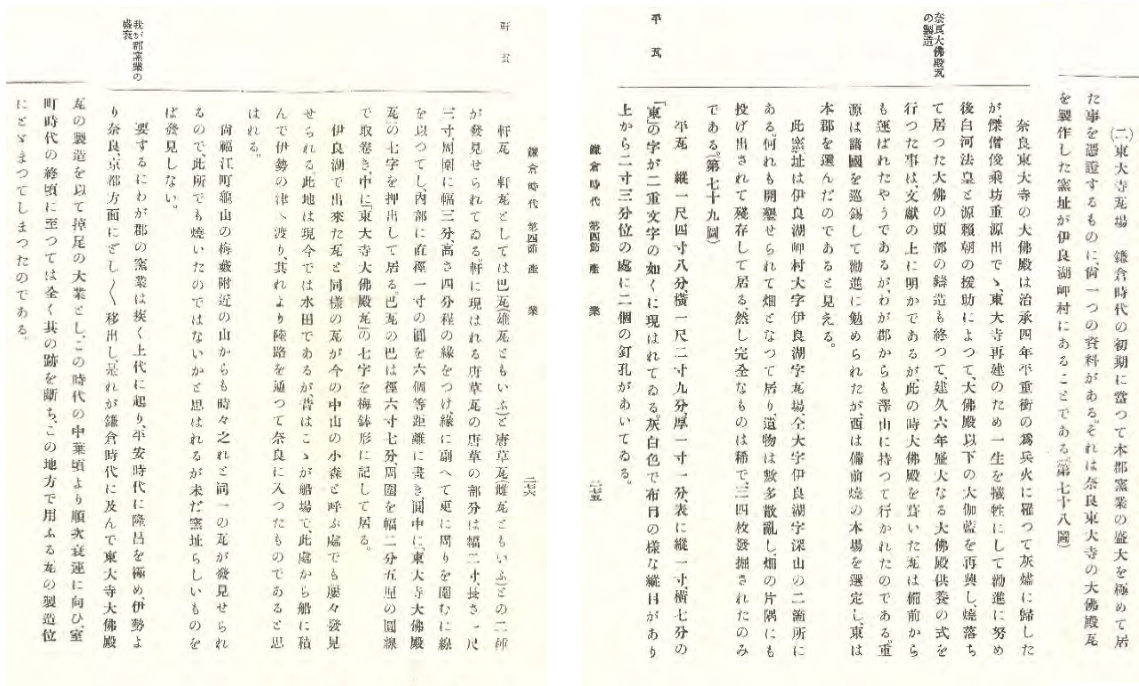


図75 『渥美郡史』東大寺瓦場記載部分（愛知県渥美郡役所1923）

圖八十七第



址窟瓦場瓦湖良伊

図 76 伊良湖瓦場瓦窯址
(愛知県渥美郡役所 1923)

圖九十七第



瓦見發掘瓦湖良伊

図 77 伊良湖瓦場発見瓦
(愛知県渥美郡役所 1923)

2001 (平成13) 年 3 月 23 日には東大寺瓦窯跡出土瓦が一括で渥美町指定文化財に指定され、田原市に合併後は田原市指定文化財として引き継がれた。2004年には窯跡を含めて初立公園として整備され、2009年に指定地を囲む柵の改修工事を行い、2014年に説明看板の内容を変更した。2019 (令和元) 年度、測量調査で現地測量図を作成し、指定範囲域を示すプラスチック杭を 7 か所設置した。2020年 2 月 7 日に伊良湖東大寺瓦窯跡出土品が県指定文化財に指定された。

現在は石柱と史跡説明の案内看板、指定地を囲む柵が設置され、石列で 3 基の窯体と関連遺構が縁取られ表現されている状態である。周辺は初立池と初立池公園が整備されている。

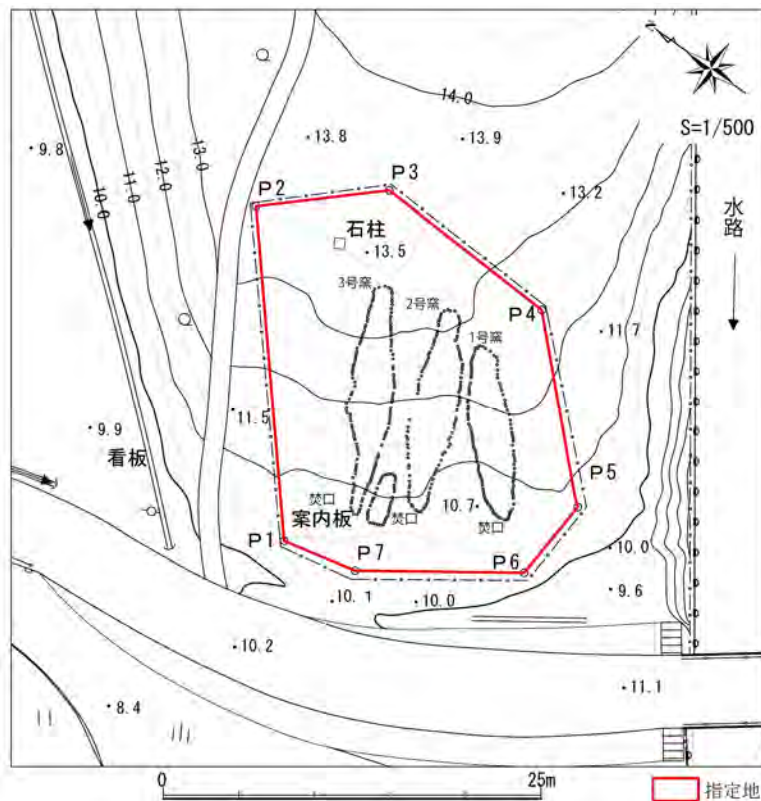


図 78 伊良湖東大寺瓦窯跡 現況測量図 (2020 年作成)

4 指定の状況（指定告示）

指定告示

名称	伊良湖東大寺瓦窯跡
所在地	愛知県渥美郡渥美町大字伊良湖字瓦場
指定地域	358 番ノ 4 の内実測 421.22 平方メートル
指定年月日	昭和 42 年 12 月 11 日 文化財保護法委員会告示第 70 号
指定基準	特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準史跡の部第 6 (窯跡) による
指定説明	窯跡は渥美半島の先端に近い字瓦場（通称初立）地内にある山林の西南斜面に位置している。昭和 41 年に発掘調査が行われ、三基の登窯と一基の平窯の跡が検出され、多数の古瓦、陶器の類が発見された。登窯はいずれも傾斜面をトンネル式に穿ったもので全長は約 15 メートル前後、燃焼室と焼成室の間には分焰柱が設けられている。鑑瓦、宇瓦にはいずれも「東大寺大仏殿瓦」の七字が配され、平瓦には「東」の刻印もみられるので、鎌倉時代における東大寺の瓦を供給した窯の一つであることは明らかである。その保存状態も良好で、学術上の価値が高い。

5 調査成果

伊良湖東大寺瓦窯跡は和名山と石堂山の間、瓦場支谷の斜面地に位置している。1967（昭和42）年に発刊された『渥美半島埋蔵文化財調査報告』では3基の窯体を南から北へ順に、南窯・中窯・北窯と名付けている。1972年の『愛知県遺跡地図』に記載の際には、南窯・中窯・北窯をそれぞれ瓦場第1号窯・第2号窯・第3号窯と名称が改められている。2012（平成24）年刊行の『愛知県史』では瓦場ではなく伊良湖東大寺瓦窯跡の名称を使用しているため、今回の計画書ではこの名称をもちいる。

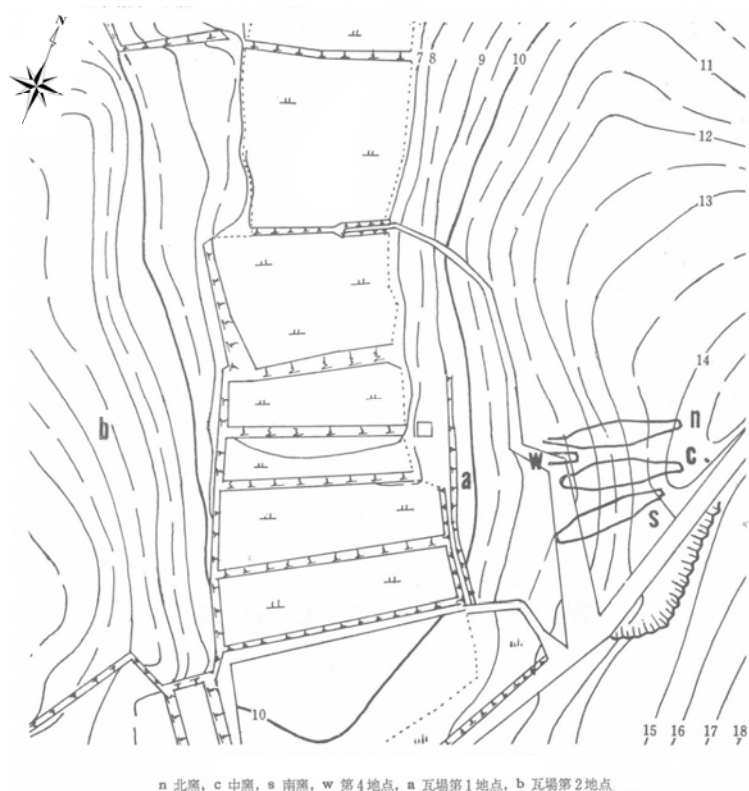


図 79 伊良湖東大寺瓦窯跡の配置と周辺地形
（愛知県 1967）縮尺任意 一部変更

第1号窯は煙道部先端を欠くが、全長 11.5m、最大幅 2.2m である。分焰柱は窯体の最深部にあり、分焰柱付近は天井部が残存していた。焼成室と煙道の境にはくびれ部がある。軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・塼・山茶碗・小皿・片口鉢・壺・甕・経筒外容器などが出土している。遺物の主体は軒丸瓦・軒平瓦である。

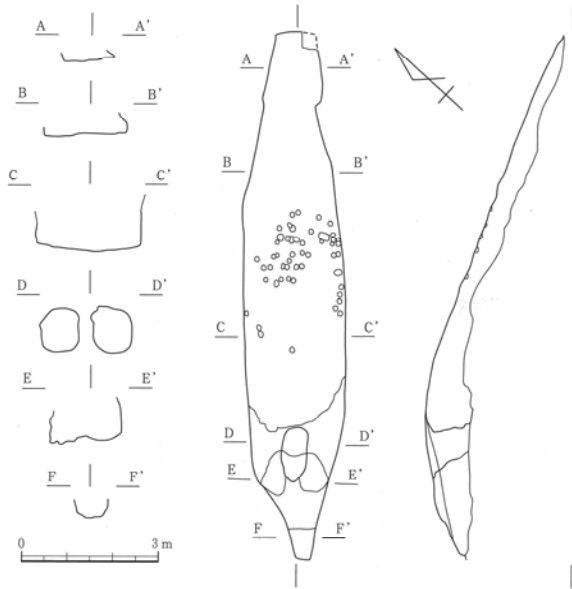


図 80 伊良湖東大寺瓦第 1 号窯
(愛知県 2012)



図 81 伊良湖東大寺瓦第 1 号窯調査
(1966 年調査)

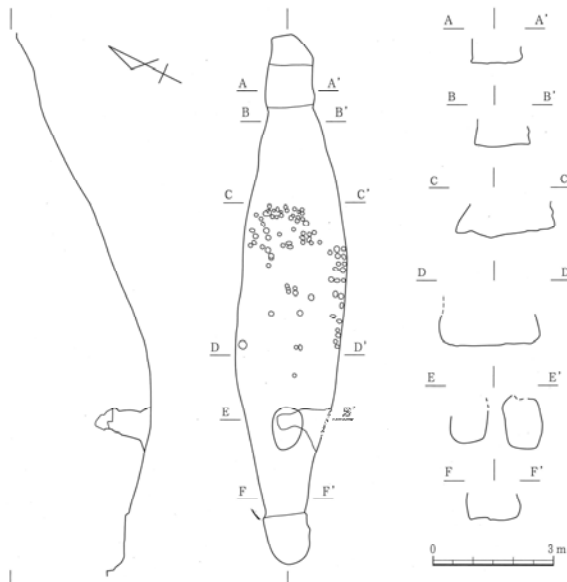


図 82 伊良湖東大寺瓦第 2 号窯
(愛知県 2012)

第2号窯はほぼ完全な形で残存しており、全長 11.8m、最大幅 2.6m である。分焰柱は窯体の最深部にあり、瓦の破片が貼り付けられ補修されていた。焼成室の壁面にも多数の塼による補修が見られた。焼成室と煙道の境にはくびれ部がある。軒丸瓦・丸瓦・軒平瓦・平瓦・塼・山茶碗・小皿・壺・甕・経筒外容器・瓦塔・「法華経」、「大日経」が刻まれた瓦経片 2 点などが出土している。渥美窯の中で瓦経が出土した唯一の窯である。

第3号窯は焚口から煙道部まで完全に残されており、全長 12.3m、最大幅 2.5m である。分焰柱がなく、燃烧室と焼成室の境が最深部になり、焼成室と煙道の境にはくびれ部がない構造の窯体で、第1、2号窯と異なっている。丸瓦・軒平瓦・平瓦・塼・山茶碗・壺などが出土し、遺物の主体は平瓦である。

伊良湖東大寺瓦窯跡の窯体構造は、3基ともに山茶碗焼成窯である。

伊良湖東大寺瓦窯跡の出土瓦は鎌倉時代の東大寺再建時に屋根瓦として使用された資料である。そのため、出土した山茶碗は東大寺瓦の年代から東海地方の中世陶器編年の定点にもなっている。しかし、最近の研究では、山茶碗の製作時期より瓦の焼成時期の方が新しい可能性があると考えられている。

また、瓦の焼成年代についても研究が進んでいる。東大寺の鐘楼修理時に伊良湖東大寺瓦窯跡の出土瓦と同様の瓦が出土していること、鐘楼は栄西が勧進職にあった13世紀初頭に再建されたものと言われていることから、伊良湖東大寺瓦窯跡の瓦焼成時期は重源が造宮勧進職であった時期、栄西が勧進職であった時期の2案が考えられる。前者が12世紀末、後者が13世紀初期と約20年の開きがあるが、東大寺での使用、出土状況と歴史的な背景を加えると13世紀初頭の時期が有力である。

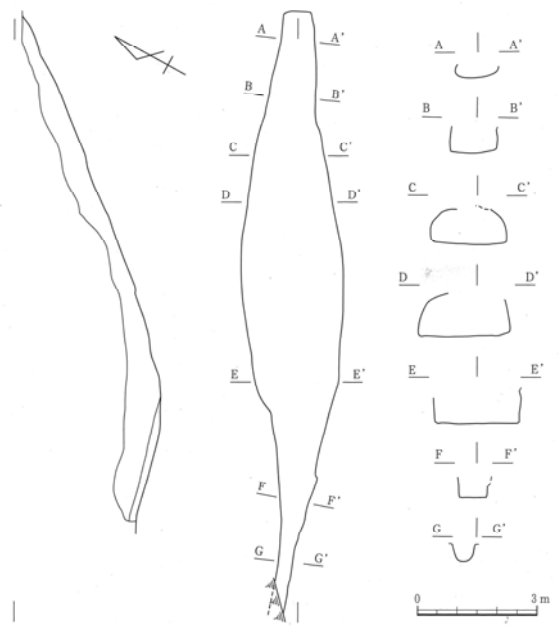


図83 伊良湖東大寺瓦第3号窯
(愛知県 2012)

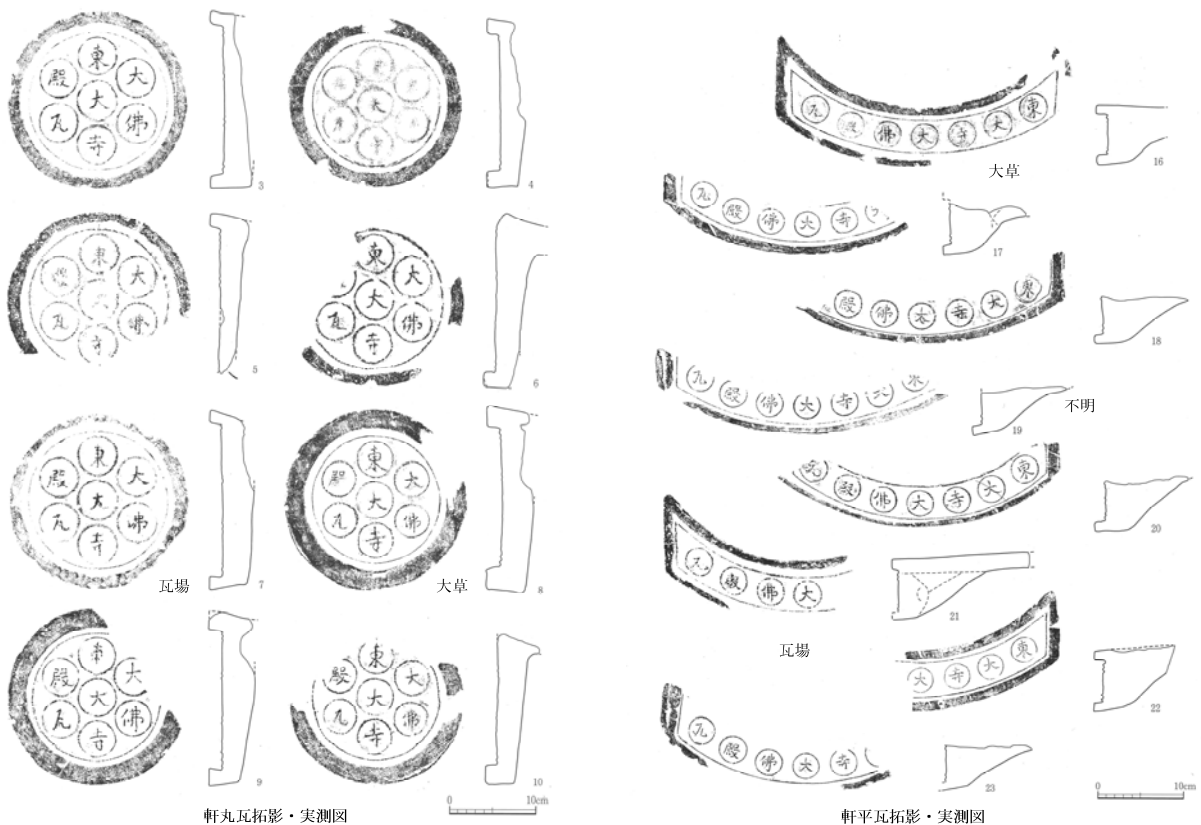


図84 伊良湖東大寺瓦窯跡出土品 (愛知県2012)

窯跡出土遺物でないものもある
(瓦場遺跡、大草遺跡、不明)

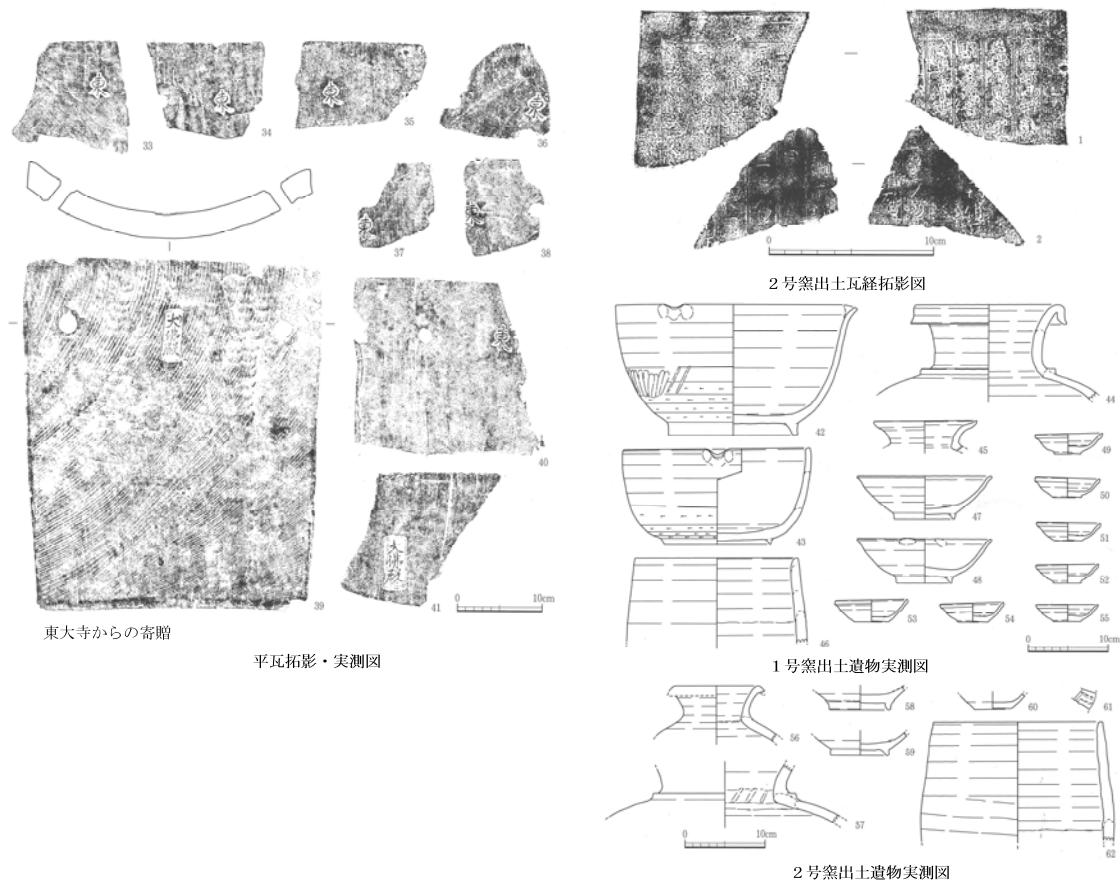


図 85 伊良湖東大寺瓦窯跡出土品 (愛知県 2012)
窯跡出土遺物でないものもある



図 86 愛知県指定文化財
伊良湖東大寺瓦窯跡出土品



図 87 東大寺瓦 (軒丸瓦・軒平瓦)

6 指定地の状況

所有者（管理団体の指定なし）

独立行政法人水資源機構

土地利用

- ・指定地の現況は初立池の用地の一部で、周辺は水田、池の用地、公園となっている。

法規制・条例

- ・指定地内外は「都市計画法」による市街化調整区域。
- ・指定地内外は「愛知県立自然公園条例」による普通地域。
- ・指定地西側の水田は「農業振興地域の整備に関する法律」による農業振興地域。



図 88 説明看板と柵



図 89 史跡整備の現況



図 90 指定地の状況

第4章 史跡の本質的価値

第1節 史跡の本質的価値の明示

近年の調査によって新たに判明した史跡の本質的価値を含め、史跡百々陶器窯跡、大アラコ古窯跡、伊良湖東大寺瓦窯跡の価値を改めて確認する。

1 史跡百々陶器窯跡の本質的価値

○窯体、灰原が良好な状態で保存

指定地は指定以前から土地開発がほとんどされないまま現在に至っており、平成以降に土のう養生した窯体2基を含めた窯体3基以上と灰原が良好に保存されている。また、窯体の前庭部や窯業関連施設（工房跡等）も保存されている可能性がある。

○谷地形、河川など周辺地形が残存

指定地を含め周辺は畑地、南に河川や谷などの起伏に富んだ地形が大幅な造成もされずに残っており、百々陶器窯跡の操業当時の地理的環境が復元可能である。

○愛知県の国指定史跡第1号として史跡に指定

百々陶器窯跡は1919（大正8）年に制定された「史蹟名勝天然紀念物保存法」から数年後の1921年に国史跡に指定されている。当時の学問水準の中で指定を受けたため、本窯跡は奈良時代の窯跡と誤認されていた。指定当時の文化財保護の歴史における史跡指定、窯業についての認識を考える上で重要な視点を与えてくれる史跡である。

2 史跡大アラコ古窯跡の本質的価値

○調査後に窯体が埋没保存

大アラコ古窯跡は発掘調査後に埋め戻しを実施し、その後に農地にするための盛土がされているため、地中に発掘調査済の窯体だけでなく、トレンチ調査で確認した未調査の窯体が埋没保存されている。

○三河国司藤原顕長の名を刻んだ短頸壺を焼成

藤原顕長（1117～1167年）は白河法皇の近臣であった藤原顕隆の三男で、二度にわたって三河国司に任じられている。藤原顕長銘の短頸壺が出土しているため、大アラコ古窯跡には三河国司である藤原顕長が何らかの形で関わっていたことが想定される。また、大アラコ古窯跡の甕や様々な器種の製品は国衙における手工業生産を考える上でたいへん貴重な資料の一つとなる。

○東海地方の窯業生産の定点となる窯

藤原顕長の三河国司在任期間から導き出された年代から、東海地方の中世陶器生産の開始時期の山茶碗編年研究が進展していった。大アラコ古窯跡は東海地方の窯業史において生産時期の定点となる貴重な窯跡である。

○古瀬戸に先んじて施釉陶器生産を行った窯

大アラコ古窯跡では、中国陶磁を模倣した施釉陶器生産で著名な古瀬戸の生産時期（12世紀末以降）に先んじて施釉陶器生産を行っている。施釉陶器の生産には高度な知識や技術が必要とされるため、本古窯跡は高度な知識や技術を有する優秀な工人集団が関わって生産を行っていたと考えられる。

○生産地と供給先が特定できる窯

東北地方の岩手県盛岡市一本松経塚や陸前高田市越戸内経塚、福島県会津坂下町雷神山経塚などから出土した施釉陶器は、大アラコ古窯跡で生産された可能性が高く、遠方の地域まで本古窯跡の製品が流通していたと思われる。生産地と供給先が推定できる稀有な窯跡である。また、芦ヶ池南地区の夕古窯跡でも施釉陶器生産が行われているため、芦ヶ池南地区は施釉陶器生産の拠点であったと考えられる。

3 史跡伊良湖東大寺瓦窯跡の本質的価値

○東大寺の鎌倉時代再建時の瓦を焼成

1966（昭和41）年の東大寺鐘楼の修理、1992（平成4）年の榎原考古学研究所による大仏殿周辺の発掘調査で、伊良湖東大寺瓦窯跡で焼かれた瓦と同一の軒丸瓦や軒平瓦が出土している。瓦の生産時期が推定できるとともに、東大寺と伊良湖御厨との関係性を示す資料でもある。

○東海地方の中世陶器編年の定点となった窯

鎌倉時代の東大寺再建時の瓦を焼いた窯跡であるため、窯体内から出土した山茶碗の時期が瓦の焼成時期と同一と考えられ、山茶碗編年の定点となった。最近の知見では、山茶碗の時期より瓦の焼成時期の方が新しい可能性が指摘されている。

○瓦経・瓦塔・経筒外容器など特殊な宗教製品も焼成

伊良湖東大寺瓦窯跡をはじめ伊良湖地区は中世の伊勢神宮領伊良湖御厨と比定されている。この地区の窯跡は、伊勢の小町塚経塚、菩提山経塚などから出土した多量の瓦経などの宗教製品も生産していた。本瓦窯跡は瓦経が出土した渥美窯で唯一の窯跡である。

第2節 構成要素の特定

史跡百々陶器窯跡、大アラコ古窯跡、伊良湖東大寺瓦窯跡の史跡指定地およびその周辺地域を構成する諸要素について表9に記載する。

表9 本質的価値を構成する諸要素

分類	内容	構成要素			
		百々陶器窯跡	大アラコ古窯跡	伊良湖東大寺瓦窯跡	
史跡を構成する要素	本質的価値を構成する要素	遺構	<ul style="list-style-type: none"> ・窯体 ・灰原 	<ul style="list-style-type: none"> ・窯体 ・灰原 	<ul style="list-style-type: none"> ・窯体 ・関連遺構
		出土遺物	<ul style="list-style-type: none"> ・山茶碗、小皿、壺、甕（分布調査の表採遺物のみ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・灰釉小型壺、藤原顕長銘短頸壺、輪花碗、山茶碗、玉縁碗、小碗、小皿、灯明皿、鉢、片口鉢、小型壺、広口壺、袈裟襷文壺、紡錘車、陶錘、甕 	<ul style="list-style-type: none"> ・東大寺瓦（軒丸瓦、丸瓦、軒平瓦、平瓦）、塼、山茶碗、小皿、片口鉢、壺、甕、経筒外容器、瓦塔、瓦経（「法華経」、「大日経」）
		窯跡が立地する地形	<ul style="list-style-type: none"> ・尾根状に残存する洪積台地の上位段丘の南側斜面 	<ul style="list-style-type: none"> ・芦ヶ池の南西にある山の裾部の小さな谷地形（農地造成等により緩やかな北東下がりの地形に改変） 	<ul style="list-style-type: none"> ・和名山と石堂山の間、瓦場支谷の斜面地（初立池の堤体の一部）
	上記以外の要素 管理施設	標識、境界杭、囲柵、標柱、石柱、説明看板	<ul style="list-style-type: none"> ・境界仮杭 ・金属製説明看板（石組土台） ・注意標識 ・指定石柱 ・窯体に石列 	<ul style="list-style-type: none"> ・境界仮杭（ピン） ・金属製説明看板 ・金属製標柱 	<ul style="list-style-type: none"> ・境界仮杭（プラスチック） ・コンクリ擬木製囲柵 ・金属製説明看板 ・指定石柱 ・窯体に石列
取扱いを検討すべきもの	建築物、工作物（看板、道路、水路含む）、樹木	<ul style="list-style-type: none"> ・説明看板 ・指定地内東側に雨水排水路 ・指定地内西側に水害対策のフトン籠等 ・一部に農業者用道路 ・樹木 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部に道路（歩道）用地を含む ・指定地内に排水用U字溝 		
指定地の周辺環境を構成する要素	周辺の遺跡	指定地周辺の窯跡	<ul style="list-style-type: none"> ・弥栄古窯跡 ・富山C古窯跡 ・神ノ釜古窯跡 ・院内古窯跡 ・嶋森古窯跡 	<ul style="list-style-type: none"> ・平岩古窯跡 ・郷津古窯跡 ・箆池古窯跡 ・浜宝珠古窯跡 	<ul style="list-style-type: none"> ・皿焼古窯跡 ・皿山古窯跡
		指定地周辺の遺跡（時代）	<ul style="list-style-type: none"> ・青津前田遺跡（縄文） ・御菌遺跡（弥生） ・堀山田銅鐸（弥生） ・谷ノ口銅鐸（弥生） 	<ul style="list-style-type: none"> ・小山田遺跡（弥生） ・柳原遺跡（弥生） ・山崎遺跡（古墳~古代） ・向山古墳群（古墳） 	<ul style="list-style-type: none"> ・川地貝塚（縄文） ・瓦場遺跡群（弥生~中世） ・石堂山経塚（中世） ・和名山城（不明）
	その他の歴史文化遺産	歴史文化資源（伝承・民俗）	<ul style="list-style-type: none"> ・長仙寺 ・百々神社 ・百々台場 	<ul style="list-style-type: none"> ・光岩 ・徳川家康狩場本陣跡 ・阿志神社 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊島ヶ池 ・松尾芭蕉 ・糟谷磯丸
	受益施設	公園、駐車場、看板（サイン）、道路、水路	<ul style="list-style-type: none"> ・国道42号と市道東ヶ谷豊島線に案内看板 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンテパルクたはら ・観光農園 	<ul style="list-style-type: none"> ・付近に初立公園（駐車場、トイレ、水辺の園地等） ・国道259号に案内看板
	周辺環境	自然、景観、土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・農地（畑）ほ場整備 ・樹林地（斜面） ・百々海岸 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地（畑）ほ場整備 ・芦ヶ池調整池 ・物見山 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地（田・畑） ・初立池 ・和名山、石堂山、城山 ・伊良湖岬 ・恋路ヶ浜



図 91 百々陶器窯跡 農業者用道路の状況



図 92 百々陶器窯跡 北側から周囲の状況



図 93 百々陶器窯跡 フトン籠設置時の状況



図 94 大アラコ古窯跡 道路用地の状況



図 95 大アラコ古窯跡 排水用U字溝の状況



図 96 伊良湖東大寺瓦窯跡 現在の状況



図 97 芦ヶ池調整池
独立行政法人水資源機構提供



図 98 初立池
独立行政法人水資源機構提供